

決斗を粉碎し東大封鎖を解除しよう！

全共斗と野合した“統一会議”を糾弾しよう！

全学連支持会議

「全共斗」とは？

「革マル派」「社会同解放派」「社会学」である。

ML派」等、トロツキスト各派と、「フロント」を含め反全学連諸派の野合組織である。この分裂主義者の野合組織である全共斗は正當に、民主的に組織されたものでなく、全くのデッサンに過ぎないものである。

「全共斗」の理論と行動とその犯罪性

彼らは、過去一月以降二環して「全学連」のイデオロギーにすぎないとし、全学連を「紛争あるのみ」と言っているのである。事件を起こしています。昨年の11月12日・14日の彼らの「封鎖」強行における暴挙は、再三の失敗にもかかわらず、東大全学友と広羽な国民の怒りをかっただけでなく、まさに彼らの犯罪性をさらけ出すに過ぎない。この様な犯罪行為は学生、教職員、市民の怒りをあおり立てるもので、彼らにとっては、彼らにとっては、広羽な学生教職員の支持などは、初めから全く向題にしていないのです。彼らは、「市民主義的団結は無効だ」と言っていて全く自治会を軽蔑しているのである。しかも「コミュニケーション的団結」といって、自分達だけで何でも出来るという幻想を持っているのである。

そしてそこから生れて来るものが、あの一連の暴力行為であり、彼らの本質は暴力なのである。彼らは「大学コミュニケーション」を唱え、大学を「教育工場」と一面的に規定し、「大学に二重権力」（教授会と学生）を打ち立てようと、暴力的に大学を民主化しようとしている。

しかし、彼らにとっては、広羽な学生教職員の支持などは、初めから全く向題にしていないのです。彼らは、「市民主義的団結は無効だ」と言っていて全く自治会を軽蔑しているのである。しかも「コミュニケーション的団結」といって、自分達だけで何でも出来るという幻想を持っているのである。

しかし、あの様な暴動を粉碎し、10日には、大学側との団交が成功し、11日には、一般学生、院生、教職員の団結の下に、多くの学舎の封鎖を暴力で解除したことは、これからの斗争に大きな力となる。

全共斗の犯罪性を見抜き、粉碎することこそ、反動又教との斗争を発展させるもの